

- と き 7月19日(金) 18:30から
- ところ 東京・明治公園

「つっちゃんです」労働会館の朝は、お相撲さん達の元気がなぶつかり稽古の声で始まる。今年も北の湖部屋が労働会館にやってきた。玄関にはノボリがはためき一階の駐車場には土俵とちゃんこ場がつくられていて。先月24日には歓迎会も行われ、W杯の後はお相撲シーズンに突入▼「審議は熟した」「いつでも採決できる」と自民党の山崎幹事長。与党はボロのでないうちに有事立法の成立を狙っている。山崎氏は防衛庁リスト問題で「(資料を)出さndeいい」と言った張本人。週刊誌でも話題に事欠かない。YKKのKが抜け、Yも危なくなっている▼「今が有事だ」と小泉首相。情報公開請求に來た人を身辺調査し、ブラックリストをLANに流した。原発協力を辞退した方がリストに載せられ各県に配布されていたことも明らかにになった。お上のやり方はすでに「有事」になっている▼有事になったらTV・新聞はどうなるか。「大本営発表は「こ免です」と10日、メディア関係者がシンポを開催した。集会実行委員会には有事立法に反対する民放労連、新聞労連の他、日放労(NHK労組)も参加している▼書いている最中に倒産の相談が労働者の「有事」。「備えあれば憂いなし」「こるばぬ先の労働組合」。「平時」のうちに労働組合をつくる。(K)

最低賃金

必ず引き上げへ！
7月23日に宣伝行動

2月には106人が最賃生活体験
「最賃では生活できない」が参加者の実感

最低賃金闘争はいよいよヤマ場を迎えます。中央最低賃金審議会は、7月26日に発表する最賃引き上げ「目安」にむけて審議をすすめています。県労働局長は、この「目安」を受け、愛知県最低賃金審議会に諮問します。そして審議会が8月6日までに答申を予定。この答申に対する異議の申立が出され、8月23日の審議会で確定することになっています。

今年の最低賃金は、春闘での賃上げ状況や8月に予定されている人事院勧告などの動向から、「引き上げがおこなわれなければならないか」あるいは「現行産別最賃が廃止されるのではないか」などの危惧する声が出されています。いまださえバートの賃金や時間給の引き下げが広まっているのに、もし最賃が引き上げられないという事になれば、いつそ時間給の引き下げが広がる可能性があります。愛労連は、5月30日に最賃審議会に対し、意見書を提出し、7月16日に交渉を予定しています。



講演する千葉労連の広瀬清さん

愛労連は6月29・30日の両日、第12回地域労連研究集会を三河ハイッでおこない、各地域労連から40人が参加しました。

今回の研究集会は、地域労連が地域経済や雇用の問題を正面から取りあげ、たたかいを展開することをテーマに、千葉県労連の広瀬清さんを迎え、信金つづしによる地域経済破壊、雇用を守るたたかひの経験が語られました。

特別報告では、中村地域センターが労働相談の専任相談員を配置して体制を確立したこと、西三南労連が市町村合併問題で「考える会」などを発足させ、合併の是非を問うシンポを開催したこと、尾東労連からはとりくみの現状について報告がされました。

翌日は運動上の悩みや今後の課題などについて討論をおこないました。現状では、とくに役員の配置の困難さや、財政面の厳しさなどが多くの地域労連からだされましたが、こうした困難を克服しつつ、地域労連は地域の労働者の「駆け込み寺」という全労連の位置づけをさらに前進させるために、加盟組合がいつそ理解を深め、地域でのとりくみを前進させようという意思統一がされました。

頼られる地域労連へ
第12回地域労連研究集会

告がされました。

翌日は運動上の悩みや今後の課題などについて討論をおこないました。現状では、とくに役員の配置の困難さや、財政面の厳しさなどが多くの地域労連からだされましたが、こうした困難を克服しつつ、地域労連は地域の労働者の「駆け込み寺」という全労連の位置づけをさらに前進させるために、加盟組合がいつそ理解を深め、地域でのとりくみを前進させようという意思統一がされました。

映画 ヒューマンドキュメンタリー

人として生きる

とき 7月14日(日)

第1回上映 PM2:30~
第2回上映 PM6:00~

ところ サン笠寺・サンホール

JR東海道本線「笠寺駅」から徒歩3分

特別鑑賞券 1,000円(当日1,300円)

申し込み・問い合わせは愛労連まで

炭坑、鉱山トンネル…。戦後日本の復興を地底から支えた労働者たちが、不治の病、じん肺によって人として生きることを脅かされ、あやまれ、つくなえなくせじん肺をスローガンに、その不合理に立ち向かい、人として生きるためにたたかった人々の記録



名古屋病院支部書記
長の谷山忠士さん
(左側)と愛知地区
協議会書記次長の長
尾実さん(右側)

組合事務所に、ずらりと並ぶ加入を祝う短冊

7月5日、名古屋市役所本庁舎のすぐ北にある国立名古屋病院に働く仲間たちでつくる全医労名古屋病院支部は、2000年8月以来、24ヶ月連続拡大を実現し、累積で100名の組合員を迎え入れています。同支部は20年程前、過半数を優に超える500名以上の組織でしたが、相次ぐ脱退などで毎年20〜30名の組合員減が続く、過去最低の126名、組織率で20%を切る状態となっていました。こうした中で執行部は、全医労本部が提起した組合員拡大3カ年計画を正面から受け止め、組織率50%

毎月、仲間を増やし続けるためにさまざまな工夫もしてきました。毎週、月水金の朝は支部だけでなく愛労連や国公など上部組織の機関誌やヒラモ職員に配布して組合のことを知らせたり、いつでも組合加入をし

執行部の意思統一と
きめ細かな計画

%の支部づくりをめざしてとくんできました。「必ず執行委員会では組織拡大を議題にしてください」と語るのは書記長の谷山忠士さん。100人目の拡大も自ら実現しました。「最初は良かったけど、毎月だからみんな対象者が底をついて、時には執行委員会で大ゲンカになったことも。だけどそこを乗り越えてきて本物になったと思います」と言います。

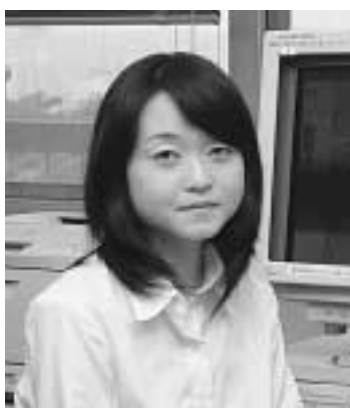


三つに折りたたむと
名刺サイズになる組合加入用紙

おやすみ

NO.6 愛知国公

「1年の内で、これらの季節がいちばん忙しくなりますね」と語るのは、名古屋千種区日和町にある名古屋地方気象台の予報課で天気予報を作成する山本暁子さん。夏場は台風や雷雨、豪雨などがあるため、予報



山本暁子さん

全気象労働組合関東中部地本
名古屋分会

「当たり前じゃない」
ちよっぴり寂しい

24時間 休みなく
山本さんはこの仕事に携わって5年目になりま

すが、半年前までは名古屋空港にある名古屋航空測候所での予報作成でした。天気予報の作成は、3名が1チームになって検討しますが、名古屋地方気象台では24時間365日を5チーム体制で行

ど、さまざまな方法によって集めたデータをもとに数値的な予報を作成し、各地方の気象台に伝えま

「この仕事の難しさを訪ねると、たぐさんのデータをもとに、誰でもわかる簡潔な内容の予報を作成することです」と言います。天気を予測する仕組みは、気象庁が全国の地上や海洋、気象衛星による宇宙からの観測な